

ふれあい懇談会会議録（令和6年度 金谷八丈サロン）

団体名 金谷八丈サロン

開催日 令和6年12月12日（木）

時 間 9時～10時30分

場 所 金谷公会堂

参加者 団体関係者14名

市長、小高区役所長、小高区地域振興課課長補佐兼庶務担当係長
（事務局）秘書課広報広聴係長、秘書課広報広聴係員

1. 開会の挨拶
2. 出席者紹介
3. 市長挨拶
4. 懇談
5. 閉会の挨拶

No.	発言者	発言内容	回答者	回答事項
1	参加者	金谷川上流に数多くの飼料がビニールラップに包まれて放置されている。もしもビニールが破れて中身が川に流れた場合、下流の用水路や農作物に悪影響を及ぼす可能性がある。撤去など適切な対応をお願いしたい。	市長	まずは現状を確認する。その上で県などの協力を得て対応を進めたい。
2	参加者	震災以降に金谷周辺に設けられた土取場から出る土砂が農業用水路に流出し、近隣の水田や農業に被害が出ている。事業者に対応を依頼しようとしたが、現在連絡がつく事業者は1社のみで、それ以外の多くの事業者は連絡が取れない状態である。また、市に問題を喚起したにも関わらず、本件の担当は県であり市では対応できないとされた。県の担当者に直接交渉し対策を実施したものの、一時的なものであり根本的な解決には至らない。市は有効な対策を打つどころか、現地視察すら行っていない。市役所には大勢の職員がいるが、現地視察が業務負担としてどれほどのものかを問いたい。相談への対応として、市が窓口となるなどの取り組みを求める。	市長	職員が頼りないとの評価は残念に思う。全ての問題を市が解決することは難しいが、可能な範囲での対応は必要と考えている。接遇研修は定期的に行っているが、相談があった際は自分自身で対応する姿勢を再度指導する。 1ha以上の事業は県へ申請、1ha未満は市が届出を受けるが、現時点で県の許可を得ているのはわずか1〜2件しかない。残りは1ha未満と主張している。これは平成20年代に過剰な採土をした結果と考えている。事業を途中で止めた管理企業もあり、市も対応に悩んでいる。 土取場についての相談は一旦市で受け、担当となる県と共に対応を進めたい。近日中に対応策を検討するため関係者との協議の場を設けたい。
3	参加者	過去に地域内のごみ集積所で地区外住民（作業員のような恰好）の不法投棄を目にしたことがある。	市長	現在は、該当する可能性がある事業所に注意喚起を行っている。
4	参加者	各家庭につながる道路入口などに防犯灯を設置してほしい。	市長	市内各所からの防犯灯設置要望については、約100mに1カ所という設置基準に基づき順次対応中であり、優先順を付けて取り組んでいる。将来的には約50mに1カ所に設置できるようにしたいと考えている。新たな設置要望は、行政区長を通じてご提出いただきたい。
5	参加者	80歳以上になると、身体の不調や運転免許の返納などで自家用車の運転が難しくなる。しかし、買い物できる施設が徒歩圏内に無いため車移動が必要となる。市の制度によるタクシー利用は高額になることがあり、車を手放すことによって移動手段がなくなることは不安である。	市長	現在、小高区で運行しているジャンボタクシーを、より効率的に活用できる方法を検討している。今後の宿題とさせてほしい。小高区外にも拠点を持つ市民がいることは把握しており、そうした方々のことも考慮した対策を考案していきたい。
6	参加者	旧小高町で運用されていた「e-まちタクシー」は、低料金でエリア内を自由に移動でき、非常に便利だった。しかし、南相馬市の運営下ではジャンボタクシーが用意されているものの、区間を超えた移動が制限されており、不便さを感じている。 現在、小高区と原町区の間を定期的に移動しながら生活しているが、ジャンボタクシーは小高区から原町区への移動のみが許可されており、逆のルートでは利用できない。対策を講じてほしい。		
7	参加者	小高区から原町区へ、さらにそこから再び小高区への移動において、ジャンボタクシーやみなタクを併用して利用すると一度に約一万円ほどの費用が発生すると耳にしている。日常生活においては、小高区と原町区の往来はもちろん、他地域への移動も必要となるため、より利便性の高い移動手段がほしい。		

8	参加者	現在、小高区と仙台で生活を送っている。国の補助により高速道路の料金が無料になっているため可能だが、補助がなくなった場合、小高から足が遠のくことを危惧している。	市長	国に対し補助続行への交渉を進めている。現在、小高区住民については移動区間や理由に関係なく無料で利用可能となっている。しかし、補助の継続には、原町区で行われているような区間指定の補助制度への変更、または利用理由の付記等、条件付けが必要となることを想定している。
9	参加者	小高区にスマートインターができると聞いて久しいが、現在はどのような状況になっているのか。	市長	現在、スマートインターの設置にあたり、最後の工程の用地交渉をしている段階にある。市の場合は計画決定前に用地交渉を行うが、国の事業では計画が確定してからしか情報公開が許されないため、事前の用地交渉ができず、時間がかかっている。
10	参加者	現在、廃校になった小中学校（旧金房小学校付近）の跡地周辺では工事が進行中のようだ。新たに企業が進出するという情報があるが、どの企業が進出するのか。	市長	ロケット部品を取り扱う企業と、環境に配慮したコンクリートを製造する企業の2社が新たに進出予定である。これら2社は、どちらも国内で高い評価を受けている。
11	参加者	小高園芸団地が設置されたが、その具体的にはどのような施設となっているのか。	市長	稲苗の生成や、野菜の商品化に関わる規格統一、選定に用いる機器を導入し、農家の出荷負担軽減を実現するための施設となっている。
12	参加者	川房の園芸施設にはどういった企業が来るのか。	市長	舞台ファームという企業が川房の施設に進出する予定である。舞台ファームの主な業務は、キュウリや稲苗、さやえんどうを含む野菜の生産である。
13	参加者	金谷地区は浪江町に隣接しており、情報が頻繁に流れてくる。浪江町では駅前への商業施設の移転や新規大手企業の進出といった大きな変化があるという。金谷地区の今後の動向について気に掛かっている。	市長	浪江町は双葉郡の中でも、街づくりが活発に行われていると感じている。研究施設の誘致や大規模な牧場ができると聞いている。浪江町での大きな動きと共に、南相馬市にも関係人口の増加なども見込めると考えている。
14	参加者	浪江町を訪れると、英語やその他の多言語対応の看板が目立つ。市でも同様の対応が行われるのか。	市長	市内では既に約600人の外国人が就労しており、今後その数が増えることが予想される。そのため、多言語対応の看板の設置は必要と考えている。
15	参加者	現在、JR小高駅を含む浪江から仙台までの間でICカードが使用できない状況だ。一部の人は、駅の管理局の境目が変わることで使用できなくなっていることを理解しているが、特に移住してきた外国人などには、なぜ利用ができないのか明確な理由が知られておらず、説明しようにも難しい。それについてはJR側からの説明及してほしいと思う。	市長	JRに対しては既にICカード対応の要望を出しており、それに対して対応可能とする旨の説明を受けている。外国人や観光客などが利用しやすい状況を作っていくことが望ましいと考えている。

No.	発言者	発言内容	回答者	回答事項
1	参加者	金谷川上流に数多くの飼料がビニールラップに包まれて放置されている。もしもビニールが破れて中身が川に流れた場合、下流の用水路や農作物に悪影響を及ぼす可能性がある。撤去など適切な対応をお願いしたい。	市長	まずは現状を確認する。その上で県などの協力を得て対応を進めたい。
2	参加者	震災以降に金谷周辺に設けられた土取場から出る土砂が農業用水路に流出し、近隣の水田や農業に被害が出ている。事業者に対応を依頼しようとしたが、現在連絡がつく事業者は1社のみで、それ以外の多くの事業者は連絡が取れない状態である。また、市に問題を喚起したにも関わらず、本件の担当は県であり市では対応できないとされた。県の担当者に直接交渉し対策を実施したものの、一時的なものであり根本的な解決には至らない。市は有効な対策を打つどころか、現地視察すら行っていない。市役所には大勢の職員がいるが、現地視察が業務負担としてどれほどのものかを問いたい。相談への対応として、市が窓口となるなどの取り組みを求める。	市長	職員が頼りないとの評価は残念に思う。全ての問題を市が解決することは難しいが、可能な範囲での対応は必要と考えている。接遇研修は定期的に行っているが、相談があった際は自分自身で対応する姿勢を再度指導する。 1ha以上の事業は県へ申請、1ha未満は市が届出を受けるが、現時点で県の許可を得ているのはわずか1〜2件しかない。残りは1ha未満と主張している。これは平成20年代に過剰な採土をした結果と考えている。事業を途中で止めた管理企業もあり、市も対応に悩んでいる。 土取場についての相談は一旦市で受け、担当となる県と共に対応を進めたい。近日中に対応策を検討するため関係者との協議の場を設けたい。
3	参加者	過去に地域内のごみ集積所で地区外住民（作業員のような恰好）の不法投棄を目にしたことがある。	市長	現在は、該当する可能性がある事業所に注意喚起を行っている。
4	参加者	各家庭につながる道路入口などに防犯灯を設置してほしい。	市長	市内各所からの防犯灯設置要望については、約100mに1カ所という設置基準に基づき順次対応中であり、優先順を付けて取り組んでいる。将来的には約50mに1カ所に設置できるようにしたいと考えている。新たな設置要望は、行政区長を通じてご提出いただきたい。
5	参加者	80歳以上になると、身体の不調や運転免許の返納などで自家用車の運転が難しくなる。しかし、買い物できる施設が徒歩圏内に無いため車移動が必要となる。市の制度によるタクシー利用は高額になることがあり、車を手放すことによって移動手段がなくなることは不安である。	市長	現在、小高区で運行しているジャンボタクシーを、より効率的に活用できる方法を検討している。今後の宿題とさせてほしい。小高区外にも拠点を持つ市民がいることは把握しており、そうした方々のことも考慮した対策を考案していきたい。
6	参加者	旧小高町で運用されていた「e-まちタクシー」は、低料金でエリア内を自由に移動でき、非常に便利だった。しかし、南相馬市の運営下ではジャンボタクシーが用意されているものの、区間を超えた移動が制限されており、不便さを感じている。 現在、小高区と原町区の間を定期的に移動しながら生活しているが、ジャンボタクシーは小高区から原町区への移動のみが許可されており、逆のルートでは利用できない。対策を講じてほしい。		
7	参加者	小高区から原町区へ、さらにそこから再び小高区への移動において、ジャンボタクシーやみなタクを併用して利用すると一度に約一万円ほどの費用が発生すると耳にしている。日常生活においては、小高区と原町区の往来はもちろん、他地域への移動も必要となるため、より利便性の高い移動手段がほしい。		

8	参加者	現在、小高区と仙台で生活を送っている。国の補助により高速道路の料金が無料になっているため可能だが、補助がなくなった場合、小高から足が遠のくことを危惧している。	市長	国に対し補助続行への交渉を進めている。現在、小高区住民については移動区間を事前登録しなくとも利用可能となっている。
9	参加者	小高区にスマートインターができると聞いて久しいが、現在はどのような状況になっているのか。	市長	現在、スマートインターの設置にあたり、最終の用地交渉をしている段階にある。早期に工事着工出来るよう努力している所。
10	参加者	現在、廃校になった小中学校（旧金房小学校付近）の跡地周辺では工事が進行中のようだ。新たに企業が進出するという情報があるが、どの企業が進出するのか。	市長	ロケット部品を取り扱う企業と、環境に配慮したコンクリートを製造する企業の2社が新たに進出予定である。これら2社は、どちらも国内で高い評価を受けている。
11	参加者	小高園芸団地が設置されたが、その具体的にはどのような施設となっているのか。	市長	稲苗の生成やきゅうり生産、選果場となっている。農家の出荷負担軽減を実現するための施設となっている。
12	参加者	川房の園芸施設にはどういった企業が来るのか。	市長	民間企業が川房の施設に進出したいとのことで、協議をしている。主に、地域で生産された野菜をカット野菜や冷凍食品に加工する工場の設置を想定している。
13	参加者	金谷地区は浪江町に隣接しており、情報が頻繁に流れてくる。浪江町では駅前への商業施設の移転や新規大手企業の進出といった大きな変化があるという。金谷地区の今後の動向について気に掛かっている。	市長	浪江町は双葉郡の中でも、街づくりが活発に行われており、さらに研究施設の誘致や大規模な牧場ができると聞いている。隣町の人の動きが活発になると、南相馬市にも関係人口の増加なども見込めると考えている。また、小高区の復興事業も頑張りたい。
14	参加者	浪江町を訪れると、英語やその他の多言語対応の看板が目立つ。市でも同様の対応が行われるのか。	市長	市内では既に約600人の外国人が就労しており、今後その数がさらに増えることが予想される。そのため、多言語対応の看板の設置は必要と考えている。
15	参加者	現在、JR小高駅を含む浪江から仙台までの間でICカードが使用できない状況だ。一部の人は、駅の管理局の境目が変わることで使用できなくなっていることを理解しているが、特に移住してきた外国人などには、なぜ利用ができないのか明確な理由が知られておらず、説明しようにも難しい。それについてはJR側からの説明及してほしいと思う。	市長	JRに対しては既にICカード対応の要望を出しており、それに対して今後対応可能とする旨の説明を受けている。外国人や観光客などが利用しやすい状況を作っていくことが望ましいと考えている。